

アカデミア メランコリア (第25回) (若手のコラム)

気象庁 地球環境・海洋部 海洋気象課 海洋環境解析センター 川上 雄真

韓国の研究機関(IBS ICCP)で活躍している山口さんからの紹介で本コラムを担当させていただきます。私は現在、海洋観測資料の解析やそれに基づいた情報の発表に携わっています。計算も作文も苦手だったはずが、いつの間にかこのような仕事についてしまうのですから、人生とはわからないものです。時々フリーズしながらも何とかやっていけているのは、生来の粘り強さのためではもちろんなく、いつも暖かく指導してくださる庁内の先輩方や学会の皆様のおかげです。



私は2年前まで仙台管区気象台で短期予報の現業業務についており、日々の天気予報や防災情報(気象警報・注意報や気象情報等)の発表を担当していました。ひとたび大雨や暴風、高温などの顕著現象が予想されると、短期予報の現場には、一般の方や市町村の防災担当者、報道機関の記者など様々な立場の方から多くの問い合わせが寄せられ、現象やその予想について詳しい解説を求められます。こうした多くの問い合わせや、発表した防災情報がテレビ等メディアで繰り返し報道される様子から、私は社会の気象や防災に対する関心の高さを感じていました。

短期予報の現場から海洋の仕事に移った今、私は海についても多くの人に関心を持ってもらいたいと思っています。穏やかな地球環境を作り出し、豊かな資源の源でもある海洋は、温暖化や酸性化、貧酸素化といった大きな問題を抱えています。そういった海洋の役割や問題は、未だ十分には認識されていないように感じられます。これからの時代、誰しも気候変動や環境変化の問題と無関係ではられません。一人一人が海の役割について理解し、海の問題について考えることは、今後、今以上に大切になってくると思っています。海に囲まれた日本は、いたるところでその恩恵を受けています。ですが、その海についてきちんと知る機会は、小・中・高の学校教育を含めても、そこまで多くないようにみえます。私自身、大学で専門科目として海洋物理学の講義を受けるまで、海についてはほとんど何も知りませんでした。このような中で、日本海洋学会の「海の出前授業(海洋学会講師派遣事業)」はとても大切な活動だと感じています。ホームページから、平成28年度の事業創設以来、20件以上の授業が行われたことを知りました。多くの方がこの活動に関わっていることを知り、その志に共感を覚えました。また、海洋に関する一般の方向けの講演会も、少なからず開かれていることに気が付きました。こうした海洋に関する知識の普及・啓発のための活動は、今後さらに広がっていくいいと思っています。

私が在籍した仙台管区気象台の予報課には、「言葉の乱れは技術の乱れ」という教えがありました。観測や予報を行うにあたり、扱う現象のしくみを誰にでもわかりやすい言葉で正確に説明・解説できないようではいけない、という意味です。現象に関する不十分な理解や曖昧な解説をよしとしないこの教えは、海洋分野に移った今も大切にしています。資料解析の面でも情報作成の面でもまだまだ勉強することばかりですが、いつの日か、たしかな技術をもって海洋に関する情報の充実や知識の普及、それから学術的な進展にも貢献するような仕事ができるよう、一日一日、ワークライフバランスよく励んでいこうと思っています。